

2025年度 学校評価票(総括)

I. めざす学校像(ミッション・ステートメント「建学の精神」)(長期的目的)
本学の建学の精神は、キリスト教精神である「自由と愛」です。自由には他者への愛と責任がともないます。「自由」とは一人ひとりの人格と主体性を尊重すること。「愛」とは互いに仕え合いながら他者と共に生きることです。この自由と愛の精神は、単にキリスト教の立場だけでなく、全ての人間が一致しうる普遍的な理念であり、人類共通の目標です。人間のそのような可能性を開花させながら、高い理想を目指してチャレンジしつづけていること、それこそが桃山学院の一世紀を超える伝統が目指そうとする「キリスト教精神であり、「世界の市民」への道なのです。

II. 教重点目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
1. 建学の精神と学校づくり	建学の精神、校風を大切にした学校づくりを行う。面倒見の良さを堅持しつつ働き方改革をすすめる。各コースの役割を振り返り、改革をすすめる	すべての教員が建学の精神と校風を理解すること。 仕事の見直し・精選。働きやすい職場づくり、休暇のとりやすい環境。外部委託も含め放課後の取組みを強化。コースの役割の明確化と改革	①働きやすい職場 ②個々の教職員の創意工夫 ③労働負荷軽減 ④心身の健康への配慮 ⑤外部委託の状況 ⑥コースの振り返り	○	いろいろな場面で建学の精神の重要性を発信した。①教員面談を実施し、より良い職場環境の実現に結びつけることができた。②働き方改革についてもいろいろな機会に発信し、先生方も意識的に取り組んでいただいた。③引き続き負担の多い部署への軽減を行った。⑤放課後個別指導の新しい取り組みを実施。⑥各コースの特色について検討した。
2. 大学合格実績の向上	海外の大学も視野に入れ、生徒の志望校を大切に。生徒の未来に寄り添った進路指導を行う。前年度の実績を上回る	講演会などの取り組み。志望校宣言の工夫と発展。共通テスト対策、難関大学対策、英検対策、諸論文・面接対策など外部委託を含め充実させる	海外の大学の推進。難関国公立・難関私大現役合格率を前年度比増を目指す	○	難関国公立大学・難関私立大学には多くの合格者を出し、昨年度に引き続き、安定した結果を残した。海外大学にも8名が進学した。
3. いのちの教育のさらなる推進	生命の尊さ、かけがえのない心と共に、人知を超える「いのち」の神髄を知る心を育てる	講演会の実施。教職員対象の救命講習、生徒対象の救命講習を充実させる	生徒・保護者・教職員自身の実感を伴うものとなるよう生徒評価アンケートでの評価を一つの指標とする	○	新しいことはできなかったが、いのちの大切さを伝えることができた

III. 中期的目標(3年が目安)	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
1. キリスト教精神をたいせつにする	キリスト教精神への理解と共感の幅を広げる。またキリスト教教育・行事等を通じ、他者と自分自身を大切にできる心や寛容の心を育む	①朝の礼拝を大切に ②キリスト教精神に基づく行事を大切に	①朝の礼拝の静粛を保つ ②生徒や教職員の積極的参加	○	本校の建学の精神を大切にすることができたと感じている。これからも、教育の中にキリスト教精神を取り入れていくつもりである
2. 授業をたいせつにする	①授業時間の徹底 ②自習課題と振り替え授業の充実 ③授業見学の発展 ④出張休暇による自習への監督教員の配置	①開始時刻と終了時刻の厳守 ②自習課題と振り替え授業の充実 ③授業見学の発展 ④自習中の生徒の活動と安全の確保	①相互で確認 ②出張休暇への時間割変更による対応の充実 ③意見交換の充実 ④自習監督の徹底	①○ ②○ ③○ ④○	①良好であった。 ②クラスルームでの配信など、自習の指示は適切であった。他日変更により自習も減少した。 ③授業見学は頻繁に行われた。 ④学年内で対応した。
3. 生活習慣の確立	①自主規律の確立 ②挨拶の励行 ③遅刻防止 ④インターネット上のトラブル防止 ⑤携帯電話の使用マナーの徹底	①自主規律HRの活用 ②自治会指導部との連携 ③朝礼遅刻の防止 ④ネットリジャーを学ばせ人の気持ちを考えるよう指導 ⑤使い方を指導し、マナーの会得や学習時間を確保させる いずれの項目とも特別生活指導週間、始業式終業式などでの呼びかけ	①実施内容のレビューとワークシートのフィードバック ②生徒教職員への意識付け ③担任指導の強化 ④⑤問題件数の減少	◎	いずれの項目も適切に実施することができ、効果的な指導に繋がっている。近年では指導案件も減り、落ち着いた教育環境を実現できている。一方、補導案件や服装身だしなみ違反は0にはならず、継続した指導が必要
4. 活発な自治会活動の推進	①自治会執行部・生徒会から各クラスや委員会への連携の強化 ②生徒の自主性を追求する学校行事の運営 ③自主規律HRの内容の見直しと発展	①評議委員会の継続的な開催 ②体育祭や文化祭において、生徒発信のアイデアを実現する方策について執行部を中心に考えさせる ③生活指導部との共催回の設定、生徒全体が関係するテーマの設定	①必要に応じて評議委員会の開催ができたかどうか ②体育祭、文化祭後の生徒アンケートによる評価 ③生徒のHRへの取り組み姿勢の変化による評価	①○ ②○ ③○	①生徒心得の改正に向けて執行部と評議委員会の協働を継続できた。 ②いずれの行事も年々盛況ぶりが加速している。地域の回覧でも文化祭を宣伝するなど、地域に根ざすことを生徒も意識しはじめている。 ③スマホ・SNS講演会を2年連続開催した。今後も生活指導部と開催を目指したい。また、第3回を設けて献血を校内で初めて実施。24名の生徒がエントリーをした。
5. 進路について	①探究活動に加えて、大学進学に関する自発的な情報収集力や行動力の養成・ポートフォリオの蓄積 ②難関大学に合格するための学習効果や受験戦略の育成 ③学生ごとに行っている進路取り組みの共有	①進路HRやオープンキャンパスにおける生徒自身による取り組みなどをポートフォリオに蓄積 ②希望制模試の受験や推薦入試への積極的な挑戦 ③進路HRなどで行った情報の蓄積	①キャリア教育として、様々な取り組みを生徒自身にポートフォリオに蓄積させ、国公立私立を問わず推薦入試への挑戦を促す ②定期的な家内と教員対象の進路講演会への参加 ③次年度につなげる年間計画の作成	①△ ②△ ③○	①年間を通じた指導ができるように、前年度の取り組みが参照できるよう努める ②医学部や海外大学の講演会は開いたが、教員の参加人数を増やしていきたい ③進路の取り組みは今後も蓄積していく
6. 中学の課題	①大学進学を見据えた学力向上 ②行事の充実を維持しつつ、効率化を図る ③受験生の増加 ④生徒支援システムの構築	①授業力の強化と放課後の取り組みの充実を引き続き取り組む ②ICTツールを駆使し、また、次年度の引継ぎも意識しながら、ワークフローを整理していく ③広報活動の充実・成績上層層の確保 ④生活指導部との連携強化	①外部模擬試験結果(過年度比較) ②次年度への引継ぎ資料を整える ③受験生の増加。受験生の偏差値状況の分析 ④システムがいかに構築されたか	①○ ②○ ③○ ④△	①模擬試験の結果では、負けずともならない結果となった ②中学校全体としての引継ぎ資料が非常に整ってきており、スムーズな連携へと繋がることができた。③昨年に引き続き、過去最高の出願者数となり、また、一定の学力レベル以上の新入生の入学につながった。 ④まだ担任や学年によるものが大きく、システムの構築と運用にはまだなかつた。
7. 入試広報の充実	建学の精神を基本とし桃山独特の校風を広く広報する	独特の校風とともに国公立合格者数、一貫コースの大学合格実績のアピールを行う	北大阪急行延伸の真面目と豊中地域での説明会を実施し、広報を強化する	△	豊中市・真面目の受験生増を実現できなかった。
8. いのちの教育の推進	いのちについて知識を深める	いのちに関連させたプログラムを実行する	年末の学校評価アンケートでのフィードバックを目安とする	○	教員対象の講習会を開催した結果、参加者の意識が変わった。
9. キャンパスの整備	①キャンパスの整備につとめる	①施設の改善点等の把握 ②施設の充実	①教員からの意見等 ②生徒保護者の満足度などが得られるように努める	○	パンの出張販売(呉北堂)を導入。今後も生徒のニーズに合った出張販売を検討中。

IV各学年別目標(中学職会・担任会)	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
中学1年	①生活習慣の確立 ②学習習慣の確立 ③言語活動、生徒支援の充実	①桃中生にふさわしい生活習慣をしっかりと確立するとともに、自ら責任を持って時間管理ができるようにする。遅刻の指導を丁寧に行い、その背景にある問題の理解・解決に努める。タブレット(スマートフォン)の適切な扱い方を習得させる指導を強化する ②「夢の実現」のため、学習に対する積極的な姿勢・学ぶ意欲を育む。授業やHR・面談等において、適切な学習方法・内容・量について継続的に指導し、ひとりひとりに合った学習スタイルを確立させる ③正しく丁寧な字、文章、言葉遣いを大切にさせるとともに、生活や学力の基礎となる言語能力の向上に努める。生徒の心身の健康状態に留意し、ひとりひとりの生徒に必要なサポート・支援を検討、共有した上で生徒支援を行う。発達の状態や特性に応じた学習支援を行う	①遅刻数、タブレット(スマートフォン)の指導件数の減少 ②模試、定期考査での成績向上。 ③こまめな指導により、生徒の状況把握に努める。	①○ ②○ ③○	①遅刻や欠席は比較的少なかった。また、スマホやタブレットの指導は件数が少なかったで、今後も指導を継続していきたい。 ②学習習慣の確立の指導は模擬試験でも一定の効果が出た。提出物などが不十分な生徒については継続的に注意が必要である。 ③様々な取り組みを行うことができたので継続していきたい。
中学2年	①生活習慣の確立 ②学習習慣の確立 ③言語活動、生徒支援の充実	①桃中生にふさわしい生活習慣をしっかりと確立するとともに、自ら責任を持って時間管理ができるようにする。遅刻の指導を丁寧に行い、その背景にある問題の理解・解決に努める。タブレット(スマートフォン)の適切な扱い方を習得させる指導を強化する ②「夢の実現」のため、学習に対する積極的な姿勢・学ぶ意欲を育む。授業やHR・面談等において、適切な学習方法・内容・量について継続的に指導し、ひとりひとりに合った学習スタイルを確立させる ③正しく丁寧な字、文章、言葉遣いを大切にさせるとともに、生活や学力の基礎となる言語能力の向上に努める。生徒の心身の健康状態に留意し、ひとりひとりの生徒に必要なサポート・支援を検討、共有した上で生徒支援を行う。発達の状態や特性に応じた学習支援を行う	①遅刻数、タブレット(スマートフォン)の指導件数の減少。 ②模試、定期考査での成績向上。 ③こまめな指導により、生徒の状況把握に努める。	①○ ②○ ③○	①遅刻はメンバーが固定化している。次年度はそういった生徒も改善できるよう努めたい。 ②成績は維持できているので、更なる向上に努めたい。 ③図書館登校から教室に復帰するなど、うまいいった事例もある一方、不登校が続いている生徒もあり、支援をより充実させたい。
中学3年	①学習習慣の確立 ②進路選択に向けた意識作り	①提出物、定期試験前後の取り組み、模試 ②大学見学、キャリアガイダンス等	①日々の提出物や定期試験前後の取り組みを確立することにより、自学自習ができる生徒を育て、それが結果につながるといふ成功体験をさせる。 ②夏の東京合宿時の大学訪問、キャリアガイダンスを通じ、自分の夢をできる限り明確な形にする	①○ ②○	①提出物は担任、教科担当教員の声掛けもあり以前より改善はみられた。遅刻、欠席に關しても事情のある生徒が数名いたが、改善が見られた。 ②普段の学校生活では見えにくいリアルな話などが聞けたことで、自身の今後を考えるきっかけとなった。

高校1年	①学習習慣の確立 ②生活習慣の確立 ③HR活動、探究的・総合的学習、生徒支援の充実	①学習に対する積極的な姿勢・学ぶ意欲を育み、生徒の夢や目標の達成に向けて学年全体で取り組む。授業やHR・面談等において、適切な学習方法・内容・量について一年間継続的に指導する。 ②自ら責任を持って時間管理ができるようにさせる。朝礼遅刻を含む遅刻の指導を丁寧に行い、下校時刻も守らせる。BYODに伴い、タブレット・スマホ・携帯電話の適切な扱い方を習得させる指導を強化する。 ③進路目標の実現に必要な情報の積極的な発信。生徒が自らの考えを深め、課題の解決に努めることができるように指導する。生徒の心身の健康状態に留意し、一人一人の生徒に必要なサポート・支援計画を検討し、教員団で共有した上で、生徒支援を行う	①日々の授業・定期考査を大切にし、その上で模試成績の向上を目指す ②朝礼遅刻を含む遅刻数を減少させるとともに、適切なタブレット・スマホ・携帯電話の扱い方を習得させる ③内容の充実を図る	①○ ②△ ③◎	①各コースごとに目標設定を行い、それぞれの成熟度合いに応じた指導の仕方を行った。それにより上手く軌道に乗れたものはそれを継続し、不具合が生じたものは軌道修正しながら成績向上へ繋げることができた。 ②遅刻指導、スマホ・タブレットの指導はその都度こまめに実施したが、今後も繰り返し指導する必要がある。特にスマホの使用に関してはいまだに細やかな指導がないと、すぐに手が伸びる状態になっている生徒が多い。 ③探究活動については、様々な方法で模索しながら一定の形を確立できたように思う。
高校2年	①学習習慣の確立 ②生活習慣の確立 ③HR活動、探究的・総合的学習、生徒支援の充実	①学習に対する積極的な姿勢・学ぶ意欲を育み、学力の向上を図り、生徒の夢や目標の達成に向けて学年全体で取り組む。 ②自ら責任を持って時間管理ができるようにさせる。朝礼遅刻を含む遅刻の指導を丁寧に行い、下校時刻も守らせる。タブレット・スマホの適切な扱い方を習得させる指導を強化する。 ③進路目標の実現に必要な情報の積極的な発信。生徒が自らの考えを深め、課題の解決に努めることができるように指導する。生徒の心身の健康状態に留意し、一人一人の生徒に必要なサポート・支援を検討し、教員団で共有した上で、生徒支援を行う	①日々の授業、家庭学習等を大切にし、模試成績の向上を目指す ②朝礼遅刻を含む遅刻数を減少させるとともに、適切なタブレット・スマホの適切な扱い方を習得させる ③内容の充実を図る	①◎ ②○ ③○	①模試ではS選抜コースが最上位層として厚くなり、また下位層を減少させることが出来た。 ②遅刻指導、スマホ・タブレットの指導は小まめにすることができたが、今後も必要性を感じる。 ③次年度の進路目標実現に向けて、さらに向上させていきたい。
高校3年	①進路目標の実現 ②生活習慣の確立 ③HR活動、探究的・総合的学習、生徒支援の充実	①それぞれの進路目標の実現に必要な学力をつけ、生徒の目標達成に向けて学年全体で取り組む。 ②自ら責任を持って時間管理ができるようにさせる。朝礼遅刻を含む遅刻の指導を丁寧に行い、下校時刻も守らせる。スマホ・タブレットの適切な扱い方を習得させる指導を強化する。生活習慣の維持に努め①の目標達成に繋げる。 ③進路目標の実現に必要な情報の積極的な発信。生徒が自らの考えを深め、課題の解決に努めることができるように指導する。生徒の心身の健康状態に留意し、一人一人の生徒に必要なサポート・支援を検討し、教員団で共有した上で、生徒支援を行う	①生徒の第一志望合格 ②朝礼遅刻を含む遅刻数を減少させるとともに、スマホ・タブレットの適切な扱い方を習得させる ③内容の充実を図る	①◎ ②○ ③○	①目標を実現する生徒も多く、ある程度満足いく成果が得られた。 ②難しさはあるが、スマホのルール設定は一定の効果があった ③必要な指導を行うことができた

V. 各コース目標(コース全編)	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の展望
一貫コース進学	①大学合格実績の向上 ②勉強だけでなく総合的な学校の満足度の向上	①六年一貫指導計画のさらなる充実、改訂 ②HRや行事の充実	模擬試験の結果、最終的な大学合格実績 生徒や保護者へのアンケート	△	高3は、学校の満足度は高いが、勉強の習慣づけが十分にできず、伸ばしきれなかった。
一貫コース選抜	①大学合格実績の向上 ②勉強だけでなく総合的な学校の満足度の向上 ③S選抜コースの成功	①六年一貫指導計画のさらなる充実、改訂 ②HRや行事の充実 ③S英数・S選抜コースとの連携強化	模擬試験の結果、最終的な大学合格実績 生徒や保護者へのアンケート	○	選抜は阪大5名、神戸大1名と、S選抜に転コースした4名からも阪大2名と難関10大学に8名合格と優秀な結果を出せた。
文理コース文理	①国公立大学、難関私立大学の進学実績向上 ②入試に活用できる英語検定試験の学力アップ ③クラブ活動への積極的参加	①普段の授業、模試の活用等 ②普段の授業、朝学習等 ③各クラブ顧問と担任との連携等	①国公立25% 難関私立50% (文理全体に対する延べ人数合格率) ②英検2級以上の取得率の向上 ③年度初めと年度末のクラブ加入率の差	○	①国公立の合格者数(63、昨年23)は目標を大きく超えた(29%)。
文理コースアスリート	①5クラブの全国大会出場ならびに上位進出 ②日本代表またはそれに準ずる選手の輩出	強化合宿、遠征の充実、練習環境の整備、選考会への派遣	①大会結果 ・近畿大会(出場・入賞) ・全国大会(出場・入賞) ②代表選考結果	○	・近畿大会に水泳、ハンド、バレーが出場(水泳は優勝、バレーは準優勝、ハンドは3位準優勝) ・全国大会へは水泳・ハンドが出場(全国私学にはバレー部が出場) ・国際大会 日韓中アジア競技会にハンド部から1名選出 卒業生が世界選手権に出場(ハンド)
英数コース	難関国公立大学を含む、第一志望大学、および志望学部への合格 コースの取り組みの見直し	【高1・2】伝統ある校風を守りつつ、より高い志望への進路の意識付け 【高3】大学入学共通テスト対策・難関国公立二次対策指導	【高1・2】模擬試験の結果を注視し、問題点を探る 【高3】①大学入学共通テスト結果の向上をめざす ②第一志望大学への合格率を高める	△	コースが目指すベシレールの大学に合格を出せなかった印象である。クラス数も多く、学力レベルも薄まった感が強い。それでも学力を伸ばしきれなかったのは悔やまれる。学年を超えて情報を共有してレベルアップをはかりたい。
S英数コース	難関国公立大学を含む、第一志望大学、および志望学部への合格 コースの取り組みの見直し	【高1・2】伝統ある校風を守りつつ、より高い志望への進路の意識付け 【高3】大学入学共通テスト対策・難関国公立二次対策指導	【高1・2】模擬試験の結果を注視し、問題点を探る 【高3】①大学入学共通テスト結果の向上をめざす ②第一志望大学への合格率を高める	△	文系理系併せて旧帝8、国公立医学科2、国公立薬学科3の結果であった。第一志望合格率が叶わず浪人を選ぶ生徒も多くみられ合格率は、満足いくものではなかった。もう少し二次試験への意識を高める必要がある。
国際コースクラス	①国際社会で通用する英語での論理構成力の基礎作り ②海外大学進学を含めた多様な進路指導の充実 ③特色あるカリキュラムの改良・発展 ④長期、ターム、短期の各留学プログラム内容の充実と委託業者の選定を含めた各種業務内容の整理	①留学の事前・事後指導の充実 ②ケンブリッジ英語検定(高1全員受検、高3希望制受検)をはじめとする英語の資格試験の受検 ③高1・高2における留学事前・事後教育カリキュラムや外部講師を招聘した特別カリキュラムの実施と検証及びその改良	①外部テスト(ケンブリッジ英検・英検・IELTS) ②受検後の生徒へのアンケートと英語教科内での評価 ③受講後の生徒へのアンケート	○	留学の事前・事後指導は比較的充実したものとなった。外部から様々なジャンルの方々を講師に迎えて行った講演会も有効だった。特に高1で実施したSLICEは生徒・保護者ともに満足度が高く、今後も継続していきたい。

VI. 各部の目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の展望
教務部	①ツムギノへの移行 ②成績などの正確な入力 ③時間割変更内容の周知徹底	①ICT委員会等と連携し安定した運用を目指す ②見込み点の算出と成績入力方法の確認 ③時間割変更の一括報告	①ツムギノでの出席管理と成績処理 ②成績処理および調査書の発行が迅速におこなう ③時間割変更の周知徹底	①△ ②○ ③○	①今年度は試験的に適用し、課題を解消していった。2026年度からツムギノを本格的に導入し、各授業の出席管理に利用することとなった。 ②処理と発行を行うことができた。 ③サイボウズで周知徹底を行った。
生活指導部	①自主規律の確立 ②挨拶の励行 ③遅刻防止	①自主規律HRの活用 ②自治会指導部との連携 ③朝礼遅刻を含む遅刻指導 ①②③とも特別生活指導週間、始業式終業式などでの呼びかけ	①実施内容のレビューとワークシートのフィードバック ②生徒教職員への意識付け ③朝礼遅刻数減少	◎	いずれも生徒の成長に対し効果的に指導できた。特に第5回特別生活指導週間では、朝礼遅刻3回で遅刻反省文のキャンペーンを実施したところ、遅刻数が減少する成果が見られた。
自治会指導部	①指導部執行部連携の強化 ②生徒心得の改正に向けた執行部との協働 ③高校自治会会則、中学校生徒会会則の改定施行	①行事の準備における、執行部への関わり増加 ②執行部との協働により、自主規律の精神を再度生徒へ伝える ③会則の改定案を全生徒に共有し、今年度中に試行する	①指導部教員と執行部生徒の自由関連な意見交換をなす空間作り ②生徒心得の改正について、生徒教職員の一致点を見出す ③改定施行への到達の可否	①○ ②○ ③○	①自治会顧問の関わりを増やし、執行部生徒が多様な意見に触れる機会を設けた。コンビニ自販機や、地域祭り企画は顧問意見なしには成立しなかった。 ②改正合意がなされたことに安堵する一方で、生徒に「高度な自治を扱うこと」を教員集団で丁寧にアプローチする必要があると考える。 ③会則の改定が昭和36年以来初めて実施された。
進路指導部	①模試における基礎学力の定着及びポートフォリオの蓄積と推薦入試の促進 ②最難関大合格者数、関西4私大の合格者数増加 ③進路発信の講演会や説明会の積極的参加 ④海外大学進学への推進	①模試結果の分析も含めて、進路関係の情報整理して適切に配布・配信をし、ポートフォリオに蓄積させていく ②最難関大、関西4私大への積極的指導 ③海外大学や医学部などの説明会に加えて、各予備校実施の講演会や説明会の参加を促す ④海外大学進学への説明会の実施、提携校卒の拡充	①模試結果の分析会実施数・ポートフォリオの記載件数・推薦入試出願合格者数 ②東大、京大、国公立医学科、早慶、関西4私大の合格者数 ③講演会発信数と参加数 ④海外大学への進学者数	①○ ②△ ③○	①進路指導室に届いた生徒が参加できる活動等のお知らせを発信し続けた。次年度も継続する。 ②進路指導室が資料で溢れていた時期があった。 ③学年ごとに進路の取り組みを蓄積し、次年度に取り組みをつなげることができた。

Ⅷ. 各委員会の目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
国際教育委員会	①これまで実施した国際コース独自の取り組みの総括と改善点の洗い出し ②国際コースの留学プログラムの見直し ③EIP留学の周知 ④中国人留学生の一定数確保	①各取り組みの関係各所や生徒からのヒアリングを実施すると共に、国際コース教員間の情報共有の徹底 ②実際に留学に行った生徒や既存の留学エージェントからのヒアリングを実施する。また、他のエージェントや留学プログラムと比較・検討する。 ③渡米留学希望生徒の一定数確保に伴う学内外を問わないホストファミリーの確保(EIP) ④入学内定試験の実施(中国人留学生)	①今年度の2学期中までに総括を終え、国際コース内で共有する。 ②今年度の2学期中までに来年度以降のプログラムを決定 ③5名前後 ④秋ごろには国内外いずれかで実施	○	①台湾への1週間程度の留学を希望制で実施し、姉妹校の80周年に参加予定 ②Advanced Englishの充実 ③ターム留学1名、1年留学が3名に拡大 ④25年度は6名が入学
ICT委員会	・校内のICTインフラの整備、保全 ・教職員のICT利活用スキルの向上 ・教員用ノートPCリプレースへの対応	・職員室の有線LAN環境の整備、教員用Wi-Fi利活用の普及、新しいNCT機器の検討や提案など ・デジタル採点、ICT機器、アプリ、グループウェアなどの利活用の促進 ・トラブル対応やトラブルの啓発活動 大阪北部箕面・豊中と尼崎・西宮地域への広報活動	・端末(コンピュータ)の整理、管理の見直し ・ICT関係の便利な使い方や情報を発信する ・ICT支援員と協力して、トラブルへの早期対応を目指す	○	・生徒貸出用端末の整理/管理ができた。 ・グループウェアで新しい情報を発信した。 ・新たにICT支援業務の委託ができ、教員負担の軽減につながった。
入試広報委員会	建学の精神を中心にした広報活動に努める		説明会などの広報活動において入試広報委員中心に全教員が協力する	○	多くの先生方に外部説明会へのご協力をいただけた。
いのちの教育委員会	①生徒保健委員会 生徒による保健活動を活発にする ②「いのち」の尊さや厳かに触れ、またその神秘を体験的に感じる機会をつくる	①行事での委員会活動・各種ポスター作成活動など ②AED講習・いのちの日・管プロジェクト・ボランティア活動・中3カフェテリアの取り組み	生徒保健委員会の実施内容 ・行事ごとのクラスの衛生管理 ・保護者活動 ・(中学)熱中症/感染症ポスター作成	○	すべてで実施することができ、いい成果が見られた
人権教育委員会	人権教育に関して 社会に存在する様々な人権問題に関心を持ち、理解を深める	人権HR、講演会、人権エッセイ、映画鑑賞会、啓発活動などの取り組み	生徒からの感想文、教員、外部発表からのフィードバック	○	人権HRや映画鑑賞は全て実施し、生徒・教員からの感想も良好であった 啓発活動はもう少し実施したいと思うので、日程を確保し内容を精査したい
宗教教育委員会	宗教教育に関して 礼拝や祈り、各種行事を通して自他の尊厳を大切にすることを養う	礼拝・行事でのマナー向上	①礼拝・行事・講演会等の充実 ②PISISの紙面充実	○	宗教教育に関して目的を達成していると感じている。また、ビスティスにいても協力者と共に良いものが作れていると自負している
公費助成委員会	①公費助成拡大の理念の普及・拡大 ②はがき運動・署名運動の拡大 ③署名数の増加	①従来からの取り組みの継続 ②従来の取り組みのさらなる充実 ③新しい取り組みの模索	①はがき回収枚数前年比+15% ②署名数前年比+15%、文化祭当日の署名活動再開 ③活動の主体・内容の拡大について検討する	①○ ②△	①1189枚、昨年より増(+69枚) ②7706筆、昨年より-2199筆 ともに目標数は達成できなかったが、無償化の流れの中でも保護者・教員一体の運動の継続はできている ③文化祭での署名運動再開は達成できた

Ⅷ. その他委員会の目標(1)	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
生活指導部(生徒支援)	①支援制度の確立・全教員への理解と認識の強化 ②引き継いでいくことが可能な学校全体での支援体制の構築。	①生徒支援理解を目指した積極的な事例研究や研修・情報共有 ②合理的配慮の実施と目標達成に向けた指導 ③自宅学習支援生徒への指導・対応	支援制度や合理的配慮に対する理解・認知 各支援生徒の目標達成具合	○	支援制度への理解と認識の強化は深まってきた。更なる体制強化をしていきたい。
危機管理委員会	①全構成員の危機管理意識の強化 ②防災訓練等のさらなる発展	①不審者一時対応の発展 ②避難訓練の発展	①②訓練が充実したものになったか。	①○ ②○	定例の訓練を実施し、危機管理意識の育成に努めた。
修学旅行委員会	①国内修学旅行プランの充実	①業者の意見を参考に委員会で検討	予算変更後最初のプランをより良いプランにする	○	物価高が続く中、良いプランを選定できた。
カリキュラム委員会	情報科の授業学年の改善	教科中心にスムーズな移行を目指す。	教科会議での意見交換等	×	各教科の授業時数の再編は継続して取り組む。
アスリート委員会	①5クラブの全国大会出場ならびに上位進出 ②日本代表またはそれに準ずる選手の輩出	強化合宿、遠征の充実、練習環境の整備、選考会への派遣	①大会結果 ・近畿大会(出場・入賞) ・全国大会(出場・入賞) ②代表選考結果	○	・近畿大会に水泳、ハンド、バレーが出場(水泳は優勝、バレーは準優勝、ハンドは3位準優勝) ・全国大会へは水泳・ハンドが会場(全国私学にはバレー部が会場) ・国際大会 日韓中アジア競技会にハンド部から1名選出 卒業生が世界選手権に会場(ハンド)
予算委員会	①経費削減にさらに努める ②予算の適正配分と適正執行	予算委員会での議論を深める	委員会での振り返りをていねいにおこなう	○	適切に実施された
入試委員会		高校入試ガイドラインの見直し	1学期中に結論を出す	○	適切に実施された
補導調整委員会	①補導案件の未然防止 ②適正な補導措置の実施	①日常および特別生活指導週間、始業式終業式などでの呼びかけ ②生徒の事情、学年間・案件による差異の多いよう慎重な議論	①補導案件の減少 ②措置生徒の更正	○	生徒の成長に対し適切に実施された
M1会議	桃山学院中高の将来像を考える	2021年度に解散となったが、更なる改革を協議し必要な場合は再度発足させる	2021年度に解散となったが、更なる改革を協議し必要な場合は再度発足させる	△	発足させず。ただし、進路指導部長を中心にM1プロジェクト会議を活発に運営した。

Ⅸ. 各教科の目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
国語科	生徒の表現・思考力を高める教科指導力の向上	①指導法・情報・資料の共有 ②漢字検定 ③小論文模試・小論文講座 ④ICT活用やアクティブラーニングも含めた新たな授業展開の共有	①新課程・新入試への対応。教員間の情報共有による安定した教育環境を整える ②小論文を教科を超えての学校としての取り組みにしてい	△	高2理系の古典探究の時間が減った中、どのように学力を担保する。
地歴公民科	生徒の学力実態・目標に応じた教科指導力の向上	①今後の入試制度・新過程に応じた授業内容の充実 ②電子黒板で活用できる教材の蓄積・入試問題データベースの整備 ③研修・セミナー等への参加促進、授業事例の共有	①入試制度・新過程に応じた授業内容の充実 ②電子黒板で活用できる教材の蓄積・入試問題データベースの整備 ③研修・セミナー等への参加促進、授業事例の共有	①○ ②○ ③○	①新課程に則した共通テストに対して、教科内で分析と対策が練られ、良好な結果を残すことができた。 ②教科書採択の際に出版社から付随して得られるデジタル教材を中心に、電子黒板で活用できる教育教材の整備が行われた。また、入試問題データベース(旺文社)を新たに活用した。 ③若手教員を中心に進学上位校への授業見学会が積極的に開催された。また、高校生全国地理オリンピックの指導を積極的に行った結果、教員スキルアップができた。
数学科	教科指導力の向上	①大学入試共通テストへの対応 ②数学オリンピック、数学甲子園などへの指導 ③教員同士による授業見学、指導法の研究会	①研究会への参加と情報の共有、共通テストの結果 ②数学オリンピック、数学甲子園などでの予選成績の結果 ③授業力向上・改善	①○ ②○ ③△	①教科主任が集まる会議に積極的に参加することで、情報交換できた。また、共通テストでも一定の成績を修めた。 ②高校2年生を中心に積極的に参加していた。
理科	生徒の学力・表現力の向上を目標とした指導力の向上 ICT機器の授業への活用	①各種自然科学系オリンピックへの対応 ②新課程・入試改革への対応検討 ③高3講習を他学年の教員と行う ④ICT機器を用いた授業を研究する	①各種自然科学系オリンピックでの結果 ②指導内容・カリキュラムの検討 ③外部模試や共通テストの結果 ④授業見学会や、その後の反省会の充実	①○ ②△ ③○ ④△	①2025年度はどの科目もエントリーなし。 ②中理科のカリキュラムについて検討を進めた。 ③模試、共通テスト共に昨年度よりよい結果を残した。 ④反省会を実施できず
英語科	大学進学実績と生徒の英語運用力、国際意識を高める教科指導力の向上	①大学進学実績向上のための教科指導改善 ②ICT教材の有効利用と指導法指導 ③英語各種検定試験についての対応と生徒指導 ④総合的な英語運用力向上のための指導法模索と、外国文化の紹介機会創出	①大学入試の指導に對し、より適した教科指導法の模索(研究会への参加等)、最新の大学入試に对应できる教材の研究、授業力向上のための見学会や研修参加ができたか ②学習用ICT教材を積極的に試用し、その評価について検証できたか ③検定試験についての情報を積極的に広報し、検定試験に对应するための生徒指導を行うことで、受験率・合格率が向上したか ④英語の運用能力を総合的に高めることと、外国との交流を通じて国際意識を醸成することにより、世界的に活躍できる素地を作ることができたか	①△ ②○ ③○ ④△	①教科の全教員が授業見学会を行い、指導力向上に努めた。一部の教員は大学入試問題を教員が率先して分析した。 ②教材を精査したうえで、コミュニケーション能力と知識習得の機会を増やすことができた。総合的なスキル向上に寄与するとともに、検定試験対策に割く教員の負担を軽減できた。評価検証はできていない。 ③積極的に検定試験受験を促し、受験率の向上を達成、また準1級の合格者数も増加した。 ④海外学校との交流を始め、外国への関心を高めることができた。英語の運用能力向上についてはまだ改善の余地がある。
保健体育科	①教科指導力の向上 ②授業内容の改善・充実	①授業見学の強化 ②授業内容の改善・充実	①実技の指導力が高まっているか。 また安全面や生徒ひとりひとりに適切な配慮ができていくか ②従来の指導法に満足することなく、時代や生徒にあった新たな指導法や指導力がしっかりと身についているか	①△ ②○	①実技科目においては積極的な授業見学会が見られたが、保健に関しては授業見学会しやすい環境づくりを再構築したい ②常に新しい情報を取り入れて、生徒にあった指導がなされた
芸術科	授業力の向上	授業見学会、情報共有の強化	実技の指導力が高まっているか 生徒が楽しく芸術活動に取り組めたか	△	あまり活発に授業見学会を行えなかった。より積極的に進めていきたい。
情報科 技術科	①授業力の向上 ②授業内容・計画の改善・充実 ③共通テストへの情報収集・授業での対応	①授業見学の強化 ②模密な打合せの場の確保 ③各大学の対応をまとめ、教員・生徒へ情報伝達	①共通テストに向けての指導力が高まっているか ②模密な打合せの場が確保されているか ③正確で迅速な情報共有ができていくか	①○ ②○ ③○	①共通テスト対策に向けての指導力強化が必要 ②計画を常に見直し、改善して行けた ③教員間での情報提供がより必要である
家庭科	①授業力の向上 ②授業内容の改善・充実 ③調理実習の充実	①授業力の向上 ②授業内容の改善・充実 ③メニューの厳選とアレルギーへの対応の徹底	①実技の指導力が高まっているか ②綿密な打合せの場が確保されているか ③材料を含めた安全性の確保がなされているか	①○ ②○ ③△	①調理実習を中心に各実技を円滑におこなえた。 ②研修会の内容をふまえ、授業内容の調整をおこなった。 ③調理設備の老朽化により、授業時間内で調理可能なメニューが限られている。

宗教科	①学年毎のシラバスの継続性 ②授業内容の充実と授業力の向上 ③学院方針アイデンティティ教育の実施	①非常勤教員との意思の疎通を図る ②高1の総合(アンデタイムⅠ)でチャペル見学と教会自体の解説を行う ③道徳の教科化への対応	他校事例などの情報収集や教科会議での振り返り。教務部との調整	○	非常勤講師について、本年度は殆ど困ったことはなかった。新しい非常勤講師を招いているので、次年度も担任の先生などと話し合いながら丁寧な対応を取りたいと考えている。
X. その他	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
職員会議	①会議の円滑化・時間短縮 ②活発な意見交換、発言の機会の充実	①議題の整理 ②議事・報告事項の事前共有などの工夫	①審議事項において活発な議論がなされているか ②必要な情報共有はなされているか ③時間は守られているか	①○ ②○ ③○	①高校身だしなみ規定について活発に議論できた ②可能な限り早めのレジュメ配信を行った ③守られていたと感じている
運営委員会	①会議の円滑化・時間短縮 ②現場の状況を把握し共有する	①議題の整理 ②議事・報告事項の事前共有などの工夫	①審議事項において活発な議論がなされているか②必要な情報共有はなされているか。③時間は守られているか。	①○ ②○ ③△	①意見交換に時間を要することもあったが十分に議論できた ②チャットなども利用し意思疎通が図れた ③意見交換に時間がかかり過ぎる場面もあった
M1プロジェクト	①各学年の模試などの学力推移の情報共有 ②S選抜コースの充実を図るとともに、進学実績向上のため新たな取り組みを検討する。	①模擬試験の結果が出次第実施し、コース別、教科別で得意分野、苦手分野を把握 ②苦手分野の克服に関して情報交換	苦手分野を克服し、学力向上につながったかどうかを模擬試験ごとに検証する。	○	会議を実施し、各学年の模擬試験の結果を中心に学力状況を共有した。また、進学実績の向上のため目標大学の設定など有意義な議論をした。
判定会議	①会議の円滑化・時間短縮 ②活発な意見交換、発言の機会の充実	①議題の整理 ②議事・報告事項の事前共有などの工夫	①審議事項において活発な議論がなされているか ②必要な情報共有はなされているか ③時間は守られているか。	①○ ②○ ③○	①十分に議論できた ②ツムギノのデータの活用について方向性を確認 ③守られていた
事務室	①業務改善および計画通りの会計業務運営 ②施設・設備保全計画の立案 ③効果的な生徒募集広報の実行	①業務進行の可視化と業務の整理・見直し 適切な予算管理の徹底(編成および執行) ②計画(予算化)した施設改修等の実行と、A館外壁改修の施工時期等の調整。中期保全計画の立案 ③効果的な広報戦略を立案・実行、中高ともに志願者増、予算定員の確保	①一人当たりの平均残業時間、対前年度(2024年度)比マイナス3%。 ②計画通りの実行及び、突発的な施設設備改修への対応 A館等外壁改修の施工時期の検討・調整・確定 放送設備の検討・調整 ③予算志願者数・予算定員の確保	①○ ②○ ③○	①全体では約30%減少した。しかし個人で見ると減少した者と増加した者がおり、派遣職員の退職などが重なりそのグループは残業が増えるため、戦力ダウンを最小限に抑えるための工夫が課題。 ②優先順位の変更による次年度への繰り越し工事を除き、年度内の改修計画は完了した。また、突発的な改修についても対応できた。トリニティホールからの映像配信については、舞台照明の更新などを含め、トリニティホール全体の更新事業として計画する方向で進めることとなった。A館等外壁改修の施工時期については検討は進んでいるが、実施時期の確定と予算確保が今後の課題である。 ③志願者数確保、定員充足
保健室	①事故防止 ②自己管理能力と自己決定能力、自己肯定感の向上 ③探求へつなげる	①傷病発生時の情報共有と再発防止策の検討 ②丁寧な来室対応や委員会活動での自主的な活動 ③保健委員会活動、スクールドッグ活動	①事故発生数の減 ③実際の活動履歴	①○ ②○ ③○	①体育授業(主に柔道、陸上)の事故発生が減少。体育科や管理職との情報共有や再発防止協議、体育科での再発防止対策の効果と考えられる。救急搬送事例は増加しているが、丁寧な対応として問題ないと考ええる。また菅プロジェクトとして教員研修も行い、教員の意識改革へとつながった。 ②③新たにスクールドッグ活動というフィールドがうまれた。活動に参加する生徒は自発的に活動し、また大学入試につなげる生徒もみられた。
図書館	①図書館利用と読書の推進 ②図書館登校生徒への対応の充実 ③将来の蔵書管理PC更新計画 ④館内での感染症対策	①図書館や図書館の資料を利用した授業を推進する。 ②図書館登校生徒に適切なケアを行い、必要な情報をスタッフと共有する。 ③将来の図書館蔵書管理PCのあり方を引き続き検討する。 ④コロナ禍の経験を踏まえ、引き続き安全に図書館利用をしてもらえるように、感染予防に努める。	①過去の取り組みとの比較 ②生徒の思いを大切にしつつ、精神的な安定と、教室復帰を目標とする。 ③蔵書データ等のクラウド保管の可能性などを継続的に研究する。 ④生徒に安全に利用してもらえたか。	①○ ②○ ③○ ④○	③については、今年度には新しい情報はありませんでした。継続的に情報収集したいと思います。ただし、現在のシステムを活用しながら、図書館外から蔵書検索できるポータルサイトができたのは進歩でした。
同窓会	①学校行事やクラブ活動とのつながりによる関係強化 ②卒業生教員による同窓会支援の強化	①行事ごとに同窓会長等の招聘により生徒に同窓会を意図させる ②永年会員費の納付状況等を同窓会に確認する	①行事での招聘・部活動報告を関係委員会へ報告 ②永年会員費の納付率の向上	○	同窓会の皆様には今年度も多方面のご支援をいただきました。ありがとうございました。
PTA	以前のコロナ禍の経験も踏まえつつ、安全で楽しい活動を心がける。	PTA活動の準備内容等の情報を担当教員、職員、PTA役員保護者として共有する。以前のコロナ禍の経験も踏まえつつ、今後の活動の在り方を保護者役員の皆様と共に検討する。	PTA担当教職員、保護者役員の皆様による振り返り。	○	保護者の皆様には今年度も多方面のご支援をいただきました。本当にありがとうございました。